

日本生産性本部

SCM資格取得へゼミ

用語・概念、クライアントと共有

日本生産性本部（茂木友三郎会長）のグローバル・マネジメント・センターは20日、APICSが認定するサプライチェーン・マネジメント（SCM）の国際資格「CPIIM」と「CSCP」の取得を促進するセミナーを開催した。

APICSのデリンダ・アールリッシュ副社長の来日を機に同イベントを企画。SCMの共通言語を習得することにより、グローバルビジネスの現場でコミュニケーション用語やSCMの概念・定義をクライアントと共有するメリットを訴えた。

デリンダ氏は「物流・ロジスティクスを含めた人の教育を最も重視している。

サプライチェーンの資格ではナンバー1。グローバルでの基準となる知識体系の確立や普及と併せ、具体的な改善手法をワンストップで提供する」と活動内容を紹介した。海外展開に力を入れる取引先を持つ物流事業者にとっても、SCMの基礎的知識を体系的に身に

着けられることから、荷主との連携を強化する上でも資格の取得は有効という。更に、日本ビジネスクリエイトの三枝利彰取締役デイレクターコンサルタントが、サプライチェーンの標準オペレーション記述モデル「SCORモデル」について説明。東洋ビジネスエ

ンジニアリングの小林俊光・プロダクト事業本部商品開発本部長は「APICS 2014」に参加した報告を行った。APICSは1957年に設立された非営利団体。会員は1万5千社余りの4万人で構成され、100カ国以上で292のチャネル

パートナーを持つ、SCM教育を専門とする世界最大の団体といえる。日本生産性本部のグローバル・マネジメント・センターが日本における代表機関を担っているほか、日本ビジネスクリエイトは認定教育機関を務めている。

（沢田顕嗣）